



2023年 1月号



• Take Free •

ご自由にお持ち帰り下さい

医療法人徳洲会吹田徳洲会病院
病院長 金香充範



新年あけましておめでとうございます。本年も皆様にとりまして穏やかな年となりますようお祈り申し上げます。

コロナ騒動も3年目に入りました。昨年はコロナ診療を病院の外に出す大英断を行いました。職員駐車場にコロナ専用病棟と発熱外来棟を設置し、患者様のみならず職員も安心して働けるようになりました。その結果、コロナ以外の疾患に対しても本来の病院機能を維持することができました。

当院は本年7月には開院10年目に入ります。今後も地域の住民の皆様や周辺の医療関係者の方々に喜んでいただける病院を目指してさらに努力を重ねる所存です。

本年も何卒ご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

看護部長 崎山昌代



新年あけましておめでとうございます。

卯年の今年は干支にあやかり大きく飛躍したいものです。

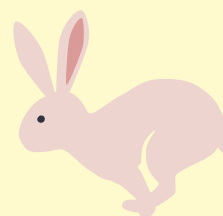
看護部の取り組みとして、昨年からみなし訪問看護を軸に病棟看護師が在宅を知る機会を設けています。退院前の患者様の生活の場を知ることで、退院後の生活を話し合う際に“患者様の思い”を共に考えることに繋げてまいります。

吹田の地に開院して10年目。今まで以上に患者様とそのご家族に寄り添っていききたいと新年に改めて決意致しました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

介護老人保健施設吹田徳洲苑 施設長 酒井敬



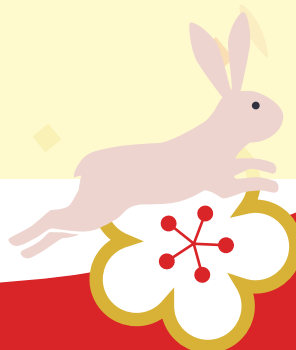
新しい年を迎えました。当老健は稼働率が常に90%を下回っていることが、長年の課題でした。老健のスタイルには類型があり、在宅復帰を主眼に置いた、施設サービス費単位の高い超強化型に8月から移行しました。それに伴い回転率を上げるため、23床の個室の内6床を多床室2床に改装し変更いたしました。その結果、ご利用いただける方が増え、11月より稼働率は92%になりました。短期入所の利用者様の入所も容易となっております。本年もご利用の程宜しくお願いいたします。



事務部長 泊谷壽也



新年あけましておめでとうございます。
今年は「癸卯」年で癸(みずのと)は十干の最後にあたり新たな生命が成長し始める状態を意味しています。また卯はウサギの様に跳ね上がるという意味が有り希望があふれ、好転する年とされています。当院もコロナに対応しながら地域により充実した医療サービスが提供できるように努力してまいります。
宜しくお願いいたします。



副院長 北田文則



新年おめでとうございます。コロナ禍の中、
当院の将来は、がん医療および救急医療をどの
ようにしていくかにかかっております。そのために
地域がん拠点病院を取得すること、基幹型臨床研修病院になること
が必須です。そうすればおのずと、ER体制も整備されていきますし、
研修医も集まってくるように思います。がん医療も、「がん治療セン
ター」を創り、集約的ながん医療を充実させていければと思っています。
皆様のご協力宜しくお願いいたします。



副院長 眞野富也

あけましておめでとうございます。2017
年にアイセンターがオープンして早5年と6か
月が経ちました。オープン以来、白内障、緑内障、
網膜疾患、角膜疾患、眼瞼、涙道など幅広い眼科疾患に対応してま
いりました。昨年末には新しく2台目の顕微鏡も入り、緊急手術に
も一層スムーズに対応できるようになりました。総合病院の利点を
生かし、各科の先生をはじめコメディカルの人達とさらに緊密に連
携し、患者様に安心して療養していただけるように職員一丸となっ
て取り組んでまいりたいと思います。



副院長 公文啓二

あけましておめでとうございます。集中治療を担当しています。昨年10月の医師法施行規則等が一部改正され医師届け出票の「従事する診療科名等」欄に「集中治療科」が追加されました。当院スーパーICUには3名の集中治療科医師が専従し最良の集中治療・チーム医療を推進しています。12月に日本ICU患者データベース（JIPAD）参加施設に準じる施設になりました。皆様のご多幸を祈念します。本年も宜しく願いいたします。

副院長 高橋俊樹



新年あけましておめでとうございます。
新型コロナウイルス感染症第八波到来中ですが、昨年2月に併設したコロナ感染症専用外来と病床を活用しながら、高度医療を含む一般地域診療も中断無く行ってまいりました。今年も個々の患者様の病状・背景に寄り添い、エビデンスに基づいた最善の診療を行ってまいります。
本年も宜しく願いいたします。

泌尿器科外来

手術支援ロボット・ダヴィンチで「低侵襲で優しい」手術 泌尿器系の幅広い疾患に対応

吹田徳洲会病院泌尿器科では、尿路性器腫瘍、尿路結石、排尿障害、尿路感染症、性機能など、腎移植以外のほとんど全ての泌尿器疾患の診療を行っております。常勤医は3名で、2022年10月から女性医師が1名、常勤として加わっております。外来診療や手術には適宜、大阪大学医学部泌尿器科から医師の応援を受けて対応しております。

当院では2015年6月に手術支援ロボット・ダヴィンチを導入して以降、前立腺全摘除術は全例、ロボット支援手術で行っております。適宜、手術手技のアップデートを行い、術後尿失禁からの早期回復や、勃起神経の温存など、患者様のご希望にできる限り沿えるように心がけています。ダヴィンチのシステムは、2023年1月に現行の Si から最新機種の Xi に更新予定です。腎癌、腎盂・尿管腫瘍や副腎腫瘍の手術は、従来から主に腹腔鏡を用いて行っておりますが、2023年以降は、より低侵襲で精度の高い、ロボット支援下の腹腔鏡手術の導入を検討しております。

浸潤癌、あるいは遠隔転移を伴う泌尿器科癌(膀胱癌、腎盂尿管癌、腎癌、前立腺癌、精巣腫瘍など)に対しては、さまざまな化学療法を行っております。適宜、放射線治療科と連携をして集学的な治療を行い、出来る限り臓器温存を目指します。また、当院はホスピス病棟も有しておりますので、症状(疼痛)緩和を主体とした治療も行っております。

尿路結石で手術が必要な場合は、ホルミウムレーザーによる結石破砕術(TUL: 経尿道的腎尿管レーザー破砕術)を主に行っております。通常、3泊4日の入院が必要ですが、当院では mores(モーゼス)モードを搭載した高出力レーザー装置を用いて、20mmを超える大きな尿路結石でも、出来るだけ1回の治療で破砕を完了するようにしています。また、入院がどうしても難しい患者様には日帰りでの ESWL(体外衝撃波碎石術)治療も行っております。

過活動膀胱(尿意切迫感を伴う頻尿)、低活動膀胱/神経因性膀胱(排尿困難)、男性の前立腺肥大症など、排尿障害につきましては、主に外来診療にて投薬治療やカテーテル処置を行っております。必要に応じて尿流動態検査(膀胱内圧測定、尿流量検査、括約筋筋電図)を行い、排尿機能を正確に把握して、適切な治療をご提案いたします。膀胱バルンカテーテルを留置されている患者様の、カテーテル抜去の可否の判定などにもこの検査が有用です。

前立腺肥大症に対する手術は、主に上述のホルミウムレーザー装置を用いた手術(HoLEP: 経尿道的前立腺レーザー核出術)を行っております。出血が少なく、被膜穿孔の合併症も少ない手技であり、当院では前立腺体積が100mlを超えるような大きな肥大症も、通常は腰椎麻酔下に施行しています。

尿閉、結石性腎盂腎炎、精巣捻転など、緊急性の高い泌尿器科疾患に対しましては、夜間や土日・祝日でもオンコール体制により、出来るだけ迅速かつ適切に対応させていただきます。

何かお困りのことがございましたら、いつでも吹田徳洲会病院 泌尿器科にご相談ください。



泌尿器科
部長 中山 治郎

【卒業年】
平成9年卒

【資格・専門医】

- ・日本泌尿器科学会 専門医・指導医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医
- ・日本泌尿器内視鏡学会 技術認定医
- ・ダヴィンチ手術者資格認定医
- ・泌尿器ロボット支援手術プロクター(前立腺) 認定医
- ・日本アンドロロジー学会 評議員
- ・日本排尿機能学会 代議員



ニャンコ先生の特別医療講演会 ～当院カテーテル治療の進化を報告

2022年11月8日、ニューオーサカホテルにて当院腫瘍内科 がんカテーテル治療センターの“ニャンコ先生” こと関明彦ドクターによる第16回目となる特別医療講演会「がんカテーテル治療について」が開催されました。

関先生は2015年4月の同治療センター開設から7年が経過し、①治療実績が蓄積され、癌腫毎のレジメンや成績が明確になり、がんの種類によって最適な抗がん剤動注の提案が出来るようになった②最新鋭医療機器 I V R - C T の導入で、高精度の画像や新しい情報が獲得可能になった③非標準治療のカテーテル治療を行うハードルは高かったが、他の診療科や幹部の先生方の評価により、吹田徳洲会病院及び徳洲会グループ全体の強力なサポートが得られるようになったこと——等を指摘。その結果、関先生は「当治療センターの医療チームは皆、モチベーションが高く、優秀なメンバーで構成されており、現在のがん患者様に対し最も充実した形の医療

提供体制が構築されている」と強調しました。

独自のブログを開設、多数の読者がいる関先生。現在、がん治療を受けている患者様やブログのファン等、当日は50名を超える参加者が、最後まで真剣に聴き入っておられました。最後に同治療センター・医療チームの医師、看護師、検査技師等、一人ひとりのスタッフが紹介され、聴衆の拍手の中で終了しました。



ごみゼロウォーク

11/12(土)、くるくるプラザ主催「第21回万博ごみゼロウォーク」にスタッフ33名で参加しました。

当日は快晴、気温も20度前後とこの時期にしては暖か、スタッフは法被を着用するとあって汗ばみながらのごみ拾い。万博周回道路はもともごみが少ないため戦利品はあまりありませんでしたが、紅葉が目眩しい中でのウォーキングは良い運動になりました。



山二地区 防災ひろば

11/27(日)、山二地区防災広場に、当院顧問の丸川医師ならびに ERスタッフ4名が参加しました。

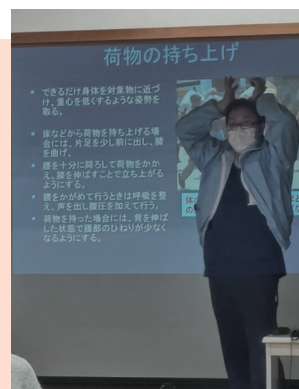
当日は体育館内のワークショップで救命の実習をうち、胸骨圧迫による心臓マッサージの方法や AED の使い方について案内しました。また当院のドクターカーも参加。ふだんはなかなか見ることのできない救急車内を見学してもらいました。





北山田地区 依頼講演

12/2(金)北山田地区公民館で、リハビリ室の和田室長が依頼講演を行いました。講座の内容は、お悩みの方が大変多い「腰痛について」で当日のご参加者は合計21名。冷える時期は悪化しやすい腰痛に関して、痛み軽減のための体操についてや予防策についてのお話を熱心に聞かれていました。ご参加ありがとうございました。



QI大会

12/5(金)、当院・当苑合同のQI大会を開催しました。

QI大会とは、徳洲会グループにおける業務改善のための取り組みの一つです。その視点は診療・看護・検査・介護の質の向上のとどまらず、サー



ビスの改善や経費削減など多岐にわたります。各病院・老健で最も良いとされた演題は、全国大会で発表することでグループ内で共有され、さらに他病院・老健でその取り組みが採用されることもあります。

本年の当院・当苑の最優秀課題は臨床工学室「透析センターの感染症廃棄物コスト削減に向けて」でした。



クリスマス演奏会

当苑9階北・南と10階南の各エリアで、12月20日から22日にかけて、それぞれクリスマス会が行われました。感染対策は

きちんと取りつつ、ちょっとした変装で参加。スタッフマジックショーでは、ご入所者から「ここがこうなってるからやで」と予期せぬタネ明かしが入り、スタッフみな大慌ての一幕も。また、当院産婦人科医によるバイオリン演奏ではバッハをはじめとするクラシック曲の演奏を聞いて皆さん大喜び。“きよしこの夜”などをバイオリン伴奏で歌い、耳にも楽しいクリスマスを堪能していただきました。



表紙写真説明

表紙写真は、毎年年初に徳州苑に登場する「吹徳神社」です。ご入所者やデイサービスご利用者が利用できるよう、通所リハビリテーション室内に設置され、絵馬掛所も設置されます。

